

## 前糖尿病状態から糖尿病発症へ1年以内に移行するリスク因子は血糖と BMI

米国の2018年の糖尿病発症率は（成人1,000人当たり6.7人）、2000年以降大きな変化がみられていない。すなわち、前糖尿病状態から糖尿病への移行を抑制するための根拠に基づいた介入が奏功していないことが示唆される。そこで本研究では、前糖尿病状態から糖尿病発症に至るリスク因子を特定し、さらに、プライマリケアにおける糖尿病発症予防のための介入の効果について後ろ向きコホート調査を実施し検討した。

糖尿病の既往がなく、過去6か月以内の妊娠や最近のステロイド使用がない前糖尿病状態の3,888例が対象となった。前糖尿病状態の人への介入については、研究への登録から12か月以内に再検査が実施されていたのは63.4%、そのうち医療介入があったのは10.4%とわずかであり、栄養サービスが紹介されたのは1.0%、メトホルミンが処方されていたのは5.4%のみであった。対象者の6%が、研究への登録から12か月以内に糖尿病を発症した。前糖尿病状態から糖尿病へ移行するリスクが高い因子について分析したところ、血糖レベルの高値とBMI（体格指数） $30\text{kg/m}^2$ 以上、人種（白人と比べて黒人でリスクが高く、オッズ比1.44）がリスク因子となることがわかった。

今回の調査から、前糖尿病状態から1年以内に糖尿病へ移行するリスク因子は、高い血糖レベルとBMI  $30\text{kg/m}^2$ 以上であることが示された。また、前糖尿病状態の人に対する糖尿病発症予防のための介入の効果が不十分であることが明らかとなり、介入の効果を上昇させることが今後の課題である。

出典：Journal of General Internal Medicine. 2022 March 02.